

第 1 0 1 7 回教育委員会会議録概要

1 日 時 平成 2 7 年 2 月 1 7 日（火）午後 3 時 0 0 分～

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 吉井委員長 西野委員 小泉委員 八田委員 林教育長
国久企画幹 三田村企画幹（学校教育） 松田企画幹（高校改革）
上野企画幹（義務教育） 穴吹教育振興課長 田中高校教育課長
山元生涯学習・文化財課長 吉野スポーツ保健課長 宮前企画参事
北川学校教育課参事 小和田教育研究所長
村崎教育振興課総括主任 山田高校教育課主任
廣部義務教育課主任 五十嵐スポーツ保健課企画主査

4 議 題

- 日程第 1 第 4 7 号議案 福井県教育委員会の委員の定数を定める条例等の一部改正について
- 日程第 2 第 4 8 号議案 福井県奨学育英資金貸付基金条例の一部改正について
- 日程第 3 第 4 9 号議案 福井県立学校職員定数条例の一部改正について
- 日程第 4 第 5 0 号議案 市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
- 日程第 5 第 5 1 号議案 平成 2 7 年度福井県公立学校再任用職員採用内定者の決定について
- 日程第 6 第 5 2 号議案 第 6 回南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について

5 審議事項

（１）開会宣告 午後 3 時 0 0 分

（２）会議録署名人の指名 小泉委員 八田委員

（３）議事要録

委員長 本日の日程第 1、第 4 7 号議案から日程第 4、第 5 0 号議案については、事務執行上公開が適当でないことから、また、日程第 5、第 5 1 号議案については、人事案件であることから、非公開といたしたい旨発議

———当該議案を非公開と決定———

委員長 日程第 1、第 4 7 号議案を議題

教育振興課長 資料に基づき説明

委員長 第４７号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

委員長 日程第２、第４８号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

委員長 第４８号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

委員長 日程第３、第４９号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

吉井委員長 来年度、校長は減るのか。

高校教育課長 小浜水産高校が閉校となるため、１名減る。

委員長 第４９号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

委員長 日程第４、第５０号議案を議題

企画幹（義務教育） 資料に基づき説明

教育長 今春、小学校の入学人数は約７千人であるが、この十年間で約千人減った。昨年１年間で生まれた子どもの数は、６千数百人であり、子どもの数がどんどん減っている。

小泉委員 小中学校の統合は、地区の衰退に大きく関わっている。

吉井委員長 少子化は、教育の問題だけではないかもしれないが、福井の総合力を上げなければならない。

委員長 第５０号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

委員長 日程第5、第51号議案を議題

企画幹（高校改革） 資料に基づき説明

委員長 第51号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

委員長 日程第6、第52号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

委員長 第52号議案について、原案に対する異議の有無を確認

————原案どおり可決————

◎協議・報告事項

協議事項

（1）「福井の教育」向上会議および女性教職員だけの教育政策研究会について

委員長 家庭における教育に対する意識の差が大きい。教育面だけではないが、そのあたりも家庭教育を考える際、考えていってほしい。

西野委員 女性教職員の教育政策研究会との意見交換に参加させていただいたが、ぜひ、このような機会をとらえて、今後も女性の考えを発信してほしい。

（2）平成26年度福井県学力調査（SASA2014）について

教育研究所長 子どもたちが、実社会とかけ離れたものとして学習をとらえるため、関心が低いということが考えられるが、社会の様々な事象は、学校で学ぶ教科の中から成り立っているのだということを、チャレンジ（C）問題を通して、子どもたちと一緒に考えていきたい。

八田委員 問題にあるが、「なぜ、2時間までは500円で、そのあとは1時間あたり150円なのか」というような経営的な疑問についても学べるとよいのではないか。

教育研究所長 中教審の答申にもあるように、今後の大学入試は、合教科型になる。複数の教科がかみ合って、様々な事柄を考えていく能力が必要になる。

教育長 このようなチャレンジ（C）問題の重要性については、市町の教育長や文部科学省にも説明したのだが、現在の学力調査を見直す時期に来ている

のではないかと思います。子どもたちが、なぜ、勉強することが将来の役に立つのかわかるように変えていく必要がある。

報告事項

- (1) 「命の教育」の徹底について
- (2) 高志中学校入学者選抜の概要について
- (3) 小中学校の学校規模適正化について

委員長 基本的には、市町の所管であると思うが、県としてはどのように取り組むのか。

企画幹（義務教育） 学校設置者である市町の考えをよく聞き、子どもにとって適切な学習環境とは、どうあるべきかということを考えて支援を行う。

- (4) 競技力向上対策（重点強化校、強化推進校）について

- (5) 平成27年度当初予算案について

八田委員 白川文字学の事業はあるが、特に就職を控えた高校生に対しては、漢字教育を行っているのか。

高校教育課長 就職間近な生徒が、ドリル形式のようなもので学んでいおり、文章を書くことも含めて取り組んでいる。

委員長 本日の会議の終了を宣告